

科目名	臨床検査演習 I					授業の種類	演習	必修・選択		必修	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期		1年	後期
【授業の目的・ねらい】 言語治療において大切な情報収集の中核となる検査を系統的に行い、主に失語症のリハビリテーション計画立案に向けて各種失語症検査の内容を把握、手順を習得することができる。また検査結果の解釈と評価について理解できる。											
【実務者経験】 幸生病院、ドレミリハビリテーション、機能訓練教室等にて、言語聴覚士として言語治療に従事。											
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査などの検査バッテリーについて理解できる。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 SLTA、WAB失語症検査、CADL、重度失語症検査などの内容を把握し、手順を習得できている。 また、検査結果の解釈と評価について説明できる。											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	標準失語症検査 (SLTA) の概要説明、実施にあたっての全般的注意を理解できる。										SLTA
2	練習問題No. 1 を実施しながら、聴く項目の説明と演習ができる。										SLTA
3	練習問題No. 1 を実施しながら、話す項目の説明と演習ができる。										SLTA
4	練習問題No. 1 を実施しながら、読む項目の説明と演習ができる。										SLTA
5	練習問題No. 1 を実施しながら、書く項目の説明と演習ができる。										SLTA
6	練習問題No. 2 を通して採点上の注意に留意することができる。										SLTA
7	症例 1 の検査場面を見て、反応を記録し採点することができる。										(VTR利用)
8	症例 1 の成績を出し、初期評価をすることができる。										
9	WAB失語症検査の概要説明を通して検査を理解できる。										WAB
10	WAB失語症検査（検者と被検者に分かれて演習を行い手順の理解ができる。）										WAB
11	重度失語症検査の概要説明を通して検査を理解できる。										DD
12	重度失語症検査（検者と被検者に分かれて演習を行い手順の理解ができる。）										DD
13	実用的コミュニケーション能力検査 (CADL) の概要説明と演習を通して検査を理解できる。										CADL
14	標準失語症検査 (SLTA) ・ WAB失語症検査の復習を通して検査の概要を説明できる。										
15	重度失語症検査・実用的コミュニケーション検査 (CADL) の復習を通して検査の概要を説明できる。										
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 適時検査用具、マニュアル、検査用紙を使用します。											
【準備学習・時間外学習】 検査についてマニュアルを熟読し、十分に手技を練習する必要があります。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											